

令和4年11月12日

まちづくり大学

# 「大阪狭山市 災害ボランティアネット」 について

社会福祉法人  
大阪狭山市社会福祉協議会  
津田和宏

# 災害ボランティアネットとは…

“災害”というキーワードを基に、希薄化している地域コミュニティを再生し、日頃からのご近所ネットワークを構築するため、また、災害ボランティアセンターが円滑に運営できるよう地域に根ざした活動を進めている関係機関・団体が集まり「災害のボランティアネット」を立ち上げました。

(構成団体)

自主防災組織連絡協議会、自治会地区会連合会、まちづくり円卓会議、民生委員・児童委員協議会、ボランティアグループ連絡会、地区福祉委員会委員長連絡会、大阪いずみ市民生活協同組合、商工会、医師会、婦人会、市民活動支援センター、社会福祉施設連絡会、大阪狭山市役所、大阪狭山市社会福祉協議会

今、災害が起きたら…  
あなたはどうしますか？



どこに行けばいいの？  
誰が助けてくれるの？  
家族との連絡は？  
食料・水・トイレは？

**誰もが同じ不安を抱えています…**

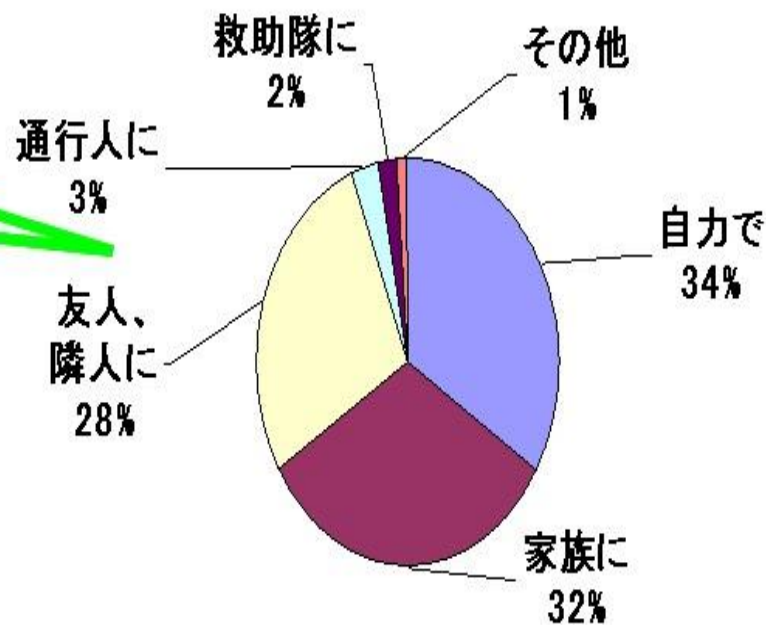
一人では分からないこと・不安なこと・出来ないことを、みんなで一緒に考え災害に備えていくことが「安心」につながります。こうした日頃の取り組みが、いざというときに自分や家族・ご近所さんの命を救います。

# 自分で備える！みんなで備える！

災害時、公的機関だけでは命を救うことはできません。  
命を守るために大切なことは

- ・自分や家族で備えること…
- ・ご近所で備えること…

災害時、どうやって助かったのか  
～阪神淡路大震災の場合～



## 命を守るために必要なこと…

- ・日頃からのご近所力…阪神淡路大震災では救助された方のうち約60%が、家族やご近所さんに救助されています。
- ・耐震化…阪神淡路大震災の犠牲者の8割強が建物倒壊などによる圧死によるものでした。

# この"ご近所力"を形に！

## 災害が起こる前に…

発災直後、消防車や救急車が来てくれるとは限りません。大阪狭山市社会福祉協議会では、阪神淡路大震災から学んだ日頃からのご近所力が必要だと考え、「災害ボランティアネット」を設置し、ネットワーク化を推進しています。

大阪狭山市では地域防災計画を策定し、自主防災組織の組織化を推進しています。

また、公共施設の耐震診断・耐震化工事を進め、災害発生時の支援協力協定を6事業者と結んでいます。

社協は、災害発生時には市と締結した「災害時におけるボランティア活動支援に関する協定書」に基づき「災害ボランティアセンター」を設置します。

# 災害ボランティアセンターとは

災害ボランティアセンターの活動目的は、被災者・被災地を主体としながらボランティアの協力を得て、地域の復興につなげていくことです



災害ボランティアセンターは、協働の場として様々な企画・計画を実施していく際の中核的な存在としての役割を期待されています

# なぜ社協が担うのか…

- 日ごろから地域福祉の推進役として、地域住民・各種団体とともに連携している
- 地区福祉委員会、民生委員児童委員協議会等とともに小地域ネットワークを事業を展開している
- 行政機関と十分に連携している
- ボランティアセンターを運営し、様々な団体と協働の実践をしている
- 全国の社協ネットワークをもっており、人的、物資的支援を活用できる

# 災害ボランティア活動とは

- 台風による風水害や地震災害時に、被災者の支援にあたる活動を“災害ボランティア活動”と言います
- すべての活動は“被災者支援”が基本です
- 阪神淡路大震災での活動が“ボランティア元年”と呼ばれ、最近では社会的にも大きな力を発揮し、被災者支援活動の大きな役割の一つになっています





# 災害ボランティアセンターのながれ

(岡山市北区災害ボランティアセンター)

# 岡山市北区災害ボランティアセンターの 運営支援

(平成30年7月11日～7月16日)



《資機材・車両の貸出  
支援》



《災害ボランティアセンター  
運営支援》

※岡山市災害VCは7月11日に開設。ボランティア受付や  
活動を開始

# 【センターの運営スタッフについて】



地元社協、市役所、NPOセンター、ふれあい公社、  
他市町村の社協、地区社協(福祉委員)、災害ボランティア  
登録者、赤十字ボランティア 等  
《開設初日7月11日時点》

## 【受付】



- ・午前9時よりボランティアの受付開始。
- ・活動を希望するボランティアは、まず受付でボランティア登録やボランティア活動保険等の手続きをします。

## 【受付②】



- ・名札の作成
- ・初めはガムテープに名前を書いて胸に貼って対応。
- ・岡山県社協でシール式ワッペンを作成し、県内の災害VCの名札を統一。

# 【オリエンテーション】



## ★活動にあたっての注意事項を説明

- ・ボランティア活動の心構え
- ・体調管理
- ・プライバシーのこと
- ・活動中のトラブルや判断に迷った際の連絡

## 【ニーズ受付】



★被災された方からの困りごと(ボランティア依頼)の聞き取りを行う。

どのようなことで困っていて、具体的に何をしてほしいのか、いつ来てほしいか、どんな道具が必要か、ボランティア何人くらいで活動できるか、車を駐車するスペースはあるか、トイレは使えるか、水は使用可能か、集積所の場所等。

# 【マッチング（活動調整）】



★ニーズ受付班からあがってきた依頼に基づいてボランティアを調整。

- ・活動内容の紹介、挙手式で調整
- ・自動車の相乗り
- ・軽トラックの運転
- ・ボランティアをグループピングしリーダーを決める

等



## 【資材・車両班】



★活動に必要な資機材や車両の貸出  
スコップ、一輪車、ぞうきん、バケツ、ほうき、軍手、  
ゴム手袋、飲み物、塩飴等

## 【現地に移動し活動①】



初期のニーズ(依頼)としては、浸水した家具や畳の運び出し、土砂の撤去、清掃等が大半であった。しかし、実は他の困りごとにもたくさんあった。

## 【現地に移動し活動②】



被災された地区の周辺の公園や、お寺、公的機関が一時的なゴミの集積所となっていた。

# 【活動報告】



★活動の進捗状況をセンターに報告

- 依頼内容が「完了」or「継続」
- 依頼者の様子
- 周辺地域の様子
- ボランティアさん達の体調等

## 【立ち上げ初日から起きたトラブル】

### ★ 資材、文具等の不足

ボールペン、クリアファイル、ホワイトボード、コピー機、付箋.....

### ★ センタースタッフ内の情報共有の不足

取り決め事、変更点、必要な情報が共有されない.....

### ★ 活動に来てくれたボランティアさんへの対応不足

どのような状況なのか説明が無い。ただただ長い待機時間.....

### ★ 熱中症で病院へ運ばれたボランティアさんへの対応について

活動先のリーダーから連絡が。しかし救護班は設置なく...

# 【日々ミーティングを重ねてセンターをバージョンアップ】

★日々積み上がってゆく課題に対して、改善策の検討や情報共有を行う。



リーダーと  
センター長に  
情報を集約  
しよう。

マッチング  
ブースのレイ  
アウトを変え  
てみよう！

活動のタイ  
ムキパーを  
決めよう！

軽トラに乗っ  
てきた人が  
一目でわか  
るように！

車両の出動  
状況を管理  
しづらい！

移動時間の  
かかる遠くの  
現場から調  
整できない  
か？

センターの  
周知が足り  
ないのかも？

待っている  
ボランティア  
さんに声か  
けをしよう！

# 【様々な団体や人との連携、協力のあり方①】

## ★自治会(町内会)

被災地区の自治会長を中心に連絡をとり、地区内の困りごとの収集を行う。また、協力を得てローラー作成(ビラまき、聞き取り)を実施。

## ★民生委員

被災地区の民生委員さんが担当している地区の高齢者を中心に困りごとを仲介して情報提供。また活動時の立ち会いなどを実施。

## ★地元の企業①

土日に社員15~20名がボランティアとして協力。事前に連絡があったことと、大人数が必要なところへのまとめた調整が可能に。

## ★地元の企業②

資機材・物資等での支援。掃除用具や飲み物等の寄附等。

## 【様々な団体や人との連携、協力のあり方②】

### ★お寺等の宗教施設

被災地区周辺のお寺が敷地の一部をボランティア用の駐車場として開放。

### ★地域包括支援センター

ボランティアさんが活動先にて、依頼者の生活状況を心配し、災害ボランティアセンターへ連絡。地域包括支援センター職員が改めて訪問。

### ★ボランティア団体

センターの運営のお手伝い。受付班や資材班など。地元住民としての土地勘を活かして、活動場所の説明や案内、地図おこし等。

### ※それぞれの動きも

DMAT(災害派遣医療チーム)、DWAT(災害派遣福祉チーム)、岡山コープ、その他企業などの独自の動きも。



さいごに

# みなさんに知ってほしいこと

- 災害は1つ1つに「顔」がある
- ボランティアの定義の理解
- 災害ボランティアセンターの理解
- 日ごろから“受援力”を高める
- 街の復旧・復興に貢献する
- 防災→減災への取り組みを推進